

# 明日のわがふるさと～ かわうちワイン事業と川内村の未来像

この村とともに歩む これまでも➡  
➡これからも➡いつまでも➡



2023年3月23日

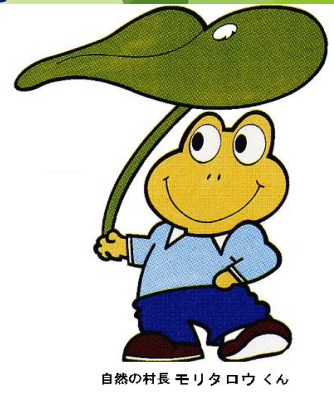
かわうちワイン株式会社

# 福島原発行動隊様と川内村とのご縁

## ご紹介

- ▶ 2012年(平成24年)4月に役場機能を避難先の郡山市から元の川内村へ戻した同年8月に「かわうち復興祭」を開催しましたが、そのイベントに福島原発行動隊様には、たくさんのご支援いただきました。
- ▶ 同年9月には、本村と「川内村帰還事業支援活動の覚書」を締結していただきまして、以来、村民の帰還促進、生活環境の整備等々にご支援をいただいております。
- ▶ 本村の新たな産業(農業)であるワイン事業が開始してからは、積極的に一年に何度もご来村いただきまして、ブドウ栽培に汗を流され、川内村のワイン事業にご尽力賜っております。

長年のご厚意に心より感謝申しあげますとともに御礼を申し上げます。



2022年10月 ブドウ収穫ボランティアの皆さん  
原発行動隊の皆様もご参加いただきました  
ご支援有り難うございました。



高田島ヴィンヤード白ワイン用シャルドネ背景



# 原発行動隊の皆様 垣根栽培レインガード取付け作業



レインガード取付と剪定・誘引後の状況

# かわうちワイン株式会社の概要

## ○会社概要

会社名	かわうちワイン株式会社
本社所在地	福島県双葉郡川内村大字上川内字大平2-1
代表者名	代表取締役 猪狩 貢
資本金	7,500千円(川内村が67%出資)
設立	2017年(平成29年)8月1日
運営体制	取締役5名、監査役1名、村派遣職員1名(統括MG) 地域おこし協力隊3名、地元農家の作業員5名
主な事業内容	ワイン用ブドウの栽培、ワインの製造販売、交流拠点等



## ○経営理念 地域に愛されるワイナリー、地域に愛されるワイン造り



- 運営方針
- 😊かわうちワイナリーは、村のワイナリーであり、村と共存共栄しながらワイン事業を進めていくことで、村の復興創生に貢献していきます。
  - 😊かわうちワイナリーは、ワインを造る場であるが、憩いの場として、地域との繋がりをづくり、地域から愛される場所になることで、交流を生み出し、ワインを核とした地域の賑わい創出を生み出します。

## ワイン事業の目的

### ▶ 目的

震災復興、帰還促進、新たな産業(農業)への挑戦、地方創生の取り組みとして、村内で収穫するワイン用ブドウからワインを生産することを目指し、醸造用ブドウ栽培に取りかかりました。

### ▶ ご支援

この事業は、2016年(平成28年)川内村が主導で推進し、ブドウ圃場周辺地域の皆様はじめ多くのサポーター、ボランティアの皆様のご支援を受けながら進めています。



高田島ヴィンヤード

## これまでの経緯(1)

### ▶ 2015年(平成27年)

- ①一般社団法人日本葡萄革進協会(東京)からワイン醸造用のブドウ栽培の受け入れ打診  
「新しい東北」先導モデル事業(復興庁)
- ②新たな産業として位置づけ大平地区の採草地9haを候補地(村有財産)
- ③第一区集落協定団体(農業)と協議して、経営母体「高田島ワインぶどう研究会」の立ち上げ



2015年12月25日福島大学が土壌分析調査実施  
(50センチ以下は砂質層で水はけ良好の確認)

## これまでの経緯(2)

### 2016年(平成28年)

- ① かわうちワイン復興まちづくり事業（内閣府）  
の採択（ブドウ栽培・圃場の保全管理等）
- ② 圃場の整備 67a
- ③ 苗木の定植 約2,100本  
（メルロー763本、シャルドネ502本、  
カベルネ・ソーヴィニヨン181本、他4品種）
- ④ ブドウ栽培管理  
（地域おこし協力隊第1号村から派遣）
- ⑤ 地元・サポーター、ボランティア  
の皆様からご支援





## これまでの経緯(3)

### 2017年(平成29年)

- ① 圃場の拡張整備 2.0 ha
- ② 新たに苗木の定植7,800本  
(メルロー3,100本、シャルドネ3,000本、  
カベルネソーヴィニヨン他1,700本)
- ③ かわうちワイン推進協議会の設置(2月24日)  
(法人設立の準備、法人設立までの栽培管理等)
- ④ かわうちワイン株式会社設立(8月1日)  
(資本金7,500千円、役員取締役3名、監査役1名)  
会社運営経費は、国、福島県及び川内村の補助金等



村長はじめサポーターの皆さん

## これまでの経緯(4)

### 2018年(平成30年)

- ① 地域おこし協力隊村から派遣(2名体制)
- ② ブドウの栽培管理
- ③ 太陽光発電の設置、作業員休憩施設の建設
- ④ 井戸掘削 (ボーリング)
- ⑤ 醸造施設整備の検討 (村実施主体)
- ⑥ 山梨大学ワイン科学研究センターの支援  
ブドウの特性評価
- ⑦ 第1期定時株主総会 (10月)



## これまでの経緯(5)

### 2019年(令和元年)

- ①地域おこし協力隊1名村から派遣(3名体制)
- ②ブドウの栽培管理
- ③追加圃場の整備20a、苗木の定植782本  
(アルバリーニョ438本、カベルネ・フラン他)
- ④醸造施設整備に向けた協議(国、福島県)
- ⑤会社事務所の変更(村公共施設の一部借用)
- ⑥第2期定時株主総会(10月)  
役員改選(取締役2年任期)



追加圃場状況



高田島ヴィンヤード全体の状況

## これまでの経緯(6)

### 2020年(令和2年)

- ①ブドウの栽培管理
- ②醸造施設建設工事着手(村発注7月) 翌年5月竣工
- ③ 待望のブドウ収穫 シャルドネ600kg  
山梨県と新潟県のワイナリーへ醸造委託  
561本(750ml)
- ④ 地域おこし協力隊3名退職(10月)
- ⑤ 地域おこし協力隊栽培及び醸造経験者1名派遣(12月)  
(良質なブドウの栽培管理始まる。 先ずは剪定作業から)
- ⑥ふくしまワインセミナー開催 いわなの郷  
山梨大学ワイン科学研究センター奥田徹教授



## これまでの経緯(7)

### 2021年(令和3年)

- ①地域おこし協力隊2名村から派遣(3名体制)
- ②ワイン醸造施設の愛称募集➡かわうちワイナリー(3月)
- ③村から統括マネージャーの立場で職員1名派遣(4月)
- ④醸造委託のシャルドネ2020完成 (4月)
- ⑤かわうちワイナリー完成(5月) 開所式(6月)  
施設面積561m<sup>2</sup> 処理能力19t (14kl) 醸造用タンク28基
- ⑥かわうちワイナリーに事務所移転・業務開始(6月)
- ⑦酒類製造営業許可(7月)、果実酒製造免許交付(8月)
- ⑧高田島ヴィンヤードのブドウ収穫7.4t (10月)  
シャルドネ3.5t、メルロー2.7t 他1.2t  
山形県産買いブドウ5.7t、計8.7klタンク熟成
- ⑨ロゴマークデザイン決定(12月)



# 2021年4月 スタッフの顔ぶれ



遠藤川内村長

## 2022年(令和4年)

## これまでの経緯(8)

- ① ラベルデザインの決定(2月)  
ヴィラージュ(村産ブドウ)、リベル(買いブドウ)
  - ② リリース第1号 ヴィラージュシャルドネ2021(3月)
  - ③ 圃場の拡張 新たな品種の定植(4月) 1,800本
  - ④ ワイン完成お披露目会 3月村内、7月東京、12月村内
  - ⑤ 製造 ヴィラージュシリーズ7銘柄、リベルシリーズ6銘柄 11,000本  
白ワイン(3月)、赤ワイン(10月)、ロゼワイン(9月)、スパークリング(12月)  
他市町のブドウ栽培者から委託醸造 2,300本 ふるさと納税返礼品
  - ⑥ ボランティア収穫作業 10月~11月  
高田島ヴィンヤード4.8t 収穫(メルロー、シャルドネ他)
  - ⑦ 買いブドウ7.7t (北海道・山形県) 計12.7t 8.8k | タンク熟成中
  - ⑧ 販売会 村内、福島市、(12月)
- 昨年より収穫量が4.8tであり2.6t減収  
原因 開花時期の日照不足、地力の低下、以前からの病気の影響



## 2023年(令和5年)の取り組み

### ①製造計画 13銘柄 約13,000本

ヴィラージュシャルドネ 3月下旬完成 4月リリース予定  
白・赤・ロゼワインを順次完成させリリース

### ②販売目標 9千本(内直販2千本、卸7千本)、醸造委託3千本 売上2千5百万円(前年対比1千1百万円増)

### ③日本ワインコンクールへ出品(受賞目指す)

### ④製造本数を2万本を目指し、圃場1ha拡張(3,500本定植)

現在、圃場面積4ha 35品種 1万4千本の木

### ⑤販売先 村内 福島県浜通り、福島市、都内、全国配送

### ⑥販売戦略 販路先の確保 特徴(テロワール)あるかわうちワインの製造

### ⑦ワインを核とした地域の賑わいづくり 交流人口増 相乗効果

○かわうちワインとトークを楽しむタベ 1月 渋谷で開催

○ふるさと祭り東京2023参加 ワイン販売 1月(10日間東京ドーム)





# かわうちワイナリーを核とした 川内村の新たな魅力づくりに向けた展開

ワインでものづくり

地域経済の活性化

交流人口の増加

ワインで仕事づくり

ワインでひとづくり



かわうちワイナリー

地元雇用の創出

若者の帰還・定着

川内村の新たな魅力づくり

## この村とともに歩む。

### これまでも・これからも・いつまでも

- 川内村のワイン事業は8年目を迎えました。  
たくさんの皆様にご縁をいただき、たくさんの皆様とともに歩み、  
たくさんの皆様の想いが詰まったワインがついに完成させることができ、今年が2シーズン目に入ります。  
“かわうち”村産のブドウを、“かわうち”村の  
ワイナリーで醸造したワインです。
- ワインの品質はブドウによって決まることから、ブドウの栽培  
管理を大事にして、もっと美味しく、もっと魅力あるワインへと  
育でていきます。
- 願わくば、あなたと一緒に、いつかこのワインが、川内村の、福島  
県の、全国の、未来を明るく照らしますように取り組んでまいります。  
皆様方のさらなるご支援をお願いいたします。



## あしたを歩く

村の交流拠点の温泉施設「かわうちの湯」のわきに【あしたを歩く】の碑を平成27年に建立しました。

これは、東日本大震災からの復興とあしたに向かい着実に前進する村の姿をイメージした碑文です。

川内村が誕生して133年を経て今日の一歩が明日、そして未来に向かって歩み続けていくことを村民と行政がともに分かち合って進もうというものです。



# 目指す継承と創生への取り組み(1)

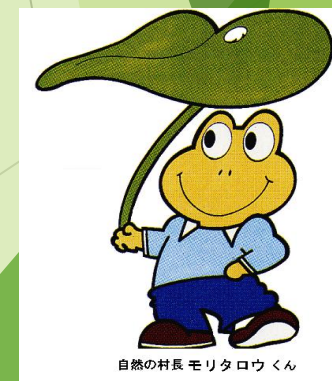
## 人口減少がもたらす課題

- 急激な人口減少と少子化・高齢化
- 全ての産業の担い手不足
- 税収及び地方交付税・交付金の減少
- 高齢者を支える若年層の負担増加
- 単独での行政機能の維持不可
- 地域社会（伝統文化継承等）の崩壊

等々

## 対策

人口減は不可避でありインフラ整備や社会経済、地域の仕組みを変える。



## 目指す継承と創生への取り組み(2)

### 川内村に求められること

- 村民の帰村促進は継続して推進を図る。
- 移住・定住人口を増やすための施策  
(住宅と雇用の場の確保)
- これまでの村の施策を見直し、適応した施策を講じる。
- 地域社会のコミュニティの形成・継承
- コンパクトな村づくりの推進



## 私たちが望む未来とは

川内村は、復興から創生への新たな村づくりに取り組んでいる。

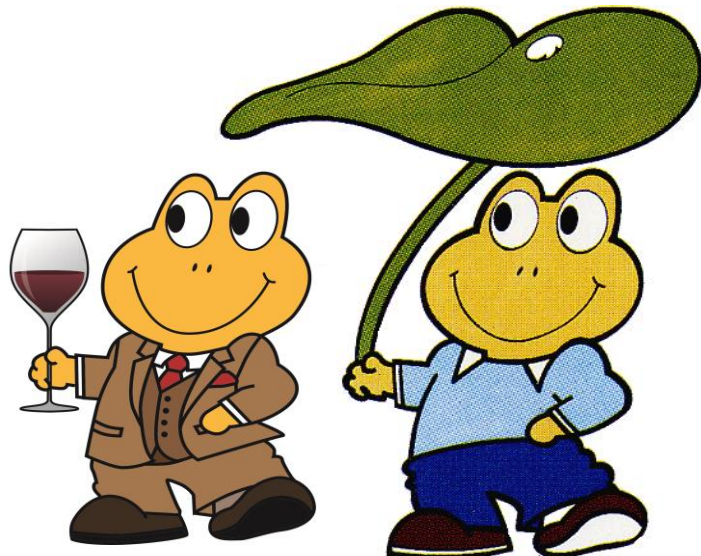
現状を乗り越え、その先の、大人も子どもも生き生きと輝くことができる、地域の人々が生きがいや誇り（川内プライド）を持てる新たな村づくりを目指す。

都会のような便利さはないが、穏やかに生まれて、穏やかに生活して、穏やかに歳を重ねていく村。



## おわりに

残念ながら震災前の川内村には戻りません。生きる意欲や目標を見据えて **新たな村づくり**を進めることが、これまでご支援いただいた多くの皆様や関係者に対する恩返しです。



自然の村長 モリタロウ くん

**今を乗り越え、その先へ  
Go Beyond!**